

自 懇 研 究 会 を 開 催 し て

「自転車の複合材料への期待と課題」というテーマを含む自懇研究会を5月29日、大阪支所で開催した。今回は定員を20名に限定して密接な意見交換をできる場を提供することとし、定員一杯の参加者を得た。

最初にスポーツ工学シリーズの第1回として(株)アシックス基礎研究部長の福岡正信氏から「スポーツ工学研究所の紹介」と題して講演が行われた。最近日本機械学会にスポーツ工学分科会や、日本スポーツ産業学会ができるなどスポーツ工学というとらえ方が広まってきた。自転車もその範疇に入れるべき部分もあり話題を提供していくべくシリーズ化を自転車技術懇談会として計画している。

講演内容は(株)アシックスのスポーツ工学研究所の概要と設備、特にシューズに関する評価方法、試験器について紹介があり、自転車にも通じるものがあり参加者から有意義な講演であったと好評であった。

つづいて「自転車の複合材料への期待と課題」というテーマでシーテックの冨迫信二氏より自転車業界からみた複合材料という観点から話題提供があり、途中よりディスカッションに入った。

少人数に限定したため多くの参加者から意見、質問、提案などが出され時間が足りないほど白熱した。出されたいいくつかの話題を以下に記す。

- ・日本のメーカー、市場ともにコンポジットに関して様子眺めになっているのが現状である。
- ・日本の市場と海外の市場は大きく異なる。現在ほとんどのコンポジット自転車の市場は海外である。
- ・台湾メーカーが非常に安価な CFRP ボンディングフレームを出してきている。
- ・アメリカメーカーからでているフレームのpatent に注意すべきである。
- ・あるアメリカのメーカーのものが今一番レベルが高く、

CFRP 自転車も熟成されつつあるという予感がする。

- ・横剛性、振動吸収性の改良、軽量化に進歩がみられる。
 - ・やはり開発から普及には時間がかかり、短絡的に現状を見てダメだと思っはいけない。必ず普及の時がくると考えている。
 - ・ヨーロッパでも、日本のアマチュアレースでも2、3割コンポジットフレームが使われており、力の差がでてくる時代がくると予測する。
 - ・成形方法と評価方法がやはり決め手である。
 - ・接着技術が特に大きな位置を占める。
 - ・自転車メーカーとすれば製造技術、量産可能なものを検討しなければならない。
 - ・普及のきっかけは軽量化、乗り心地であり、決め手は価格であろう。
 - ・自転車メーカーからすれば最初はコンポジットメーカーから材料の情報はいただけるのだが、その後の情報提供がない。
 - ・コンポジットメーカーとして自転車には大きな関心がある。しかし着手すべく企画段階で、要求スペックが明らかでない、市場予測がまるで立たない等の問題でなかなか動けないでいる。
 - ・コンポジット化にはコンポジットの適用研究のみならず、自転車の設計、評価基準、方法の確立が不可欠である。
 - ・メーカーとコンポジットの結びつきには技術の役割を期待している。
- 等の意見が出され、自転車メーカーとコンポジットメーカーとの意見交換が積極的に行われた。

その後懇親会形式で自由に個別の情報交換が活発に行われ、予定時間を1時間も延長して閉会した。

なお同内容の研究会を秋頃東京地区でも計画しております。その節にはご参加下さい。